

あし 葦葉 ば 同窓会だより



令和6年1月吉日
発行：滋賀県立農業大学校葦葉同窓会
滋賀県近江八幡市安土町大中503
TEL 0748-46-2551 FAX 0748-46-2552

就任のご挨拶

同窓会長



久保田 九

会員の皆様におかれましては、益々ご活躍のこととお喜び申し上げます。この度同窓会の運営をお世話になりました野村秀一郎前会長のご勇退の後を受け、伝統のある滋賀県立農業大学校の同窓会長に就任いたしました。微力ではございますが会員の皆様方や農大の峯校長先生をはじめとする関係者の皆様方のご指導ご協力を賜りながら主責を果たしていきますので、よろしくお願ひいたします。

さて、私は平成6年度に農大を卒業し早くも30年が過ぎようとしています。30年の間には農業情勢、農業大学校とともに大きく様変わりいたしました。

退任のご挨拶

前同窓会長



野村 秀一郎

と、平成22年より13年間もの長きにわたり微力ながら会長の職を努めてまいりました。

新型コロナウイルスの拡大が心配されました。令和2年1月には、会員および関係者の皆様のご支援により、盛大に滋賀県立農業大学校創立50周年記念大会を迎えることができましたことを厚くお礼申し上げます。

農業は農業者の高齢化による担い手不足、耕作放棄田の増加、また異常気象があたりまえの気候、近年では世界情勢の不安定や円安による資材費の高騰など、大きな課題が増えています。世界が不安定である限り食糧の安定供給が必要ですので、特に担い手の確保は喫緊の課題と感じています。

農業大学校は平成19年から専修学校化、研修科から就農科への改組、また寮制度廃止と大きく変わりました。平成30年以降はICTやASIA GAPなど時代に即した設備や取り組みを行っています。

農業大学校におかれましては滋賀県農業の為、ひいては日本農業の未来を支える担い手を育てていただき、また会員の皆様におかれましても会員相互の連携、農大との連携をより強固にして人材の育成にご協力されますことをご祈念いたします。

皆様の益々のご健勝とご多幸をお祈りし、ご挨拶とさせていただきます。

滋賀県立農業大学校の同窓会会員をはじめ、関係者の皆様方にはますますご健勝のこととお喜び申しあげます。さて、令和5年度同窓会総会におきまして、同窓会長の職を辞することとなりました。振り返ります

今後は、久保田会長様を中心に、ますますの滋賀県立農業大学校、葦葉同窓会の発展をご祈念申し上げるとともに、会員および関係者の皆様のご多幸をお祈り申し上げ退任のご挨拶といたします。

◆学校の動き◆



校長 峯 憲一郎

葦葉同窓会会員の皆様におかれましては、益々、「健勝にてお過ごしのこととお慶び申し上げます。また、平素は本校の運営に格別のご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、本校の近況ですが、お調べしたところ、本会報は平成18年以降には発行されておりませんので、この間の変更点なども含めましてご報告申し上げます。

まず、大きな変更点としては、平成19年度に学校教育法に基づく文部科学省の専修学校になりました。卒業した者には「専門士」の称号が与えられ、人事院規則・滋賀県人事委員会規則上、短期大学卒業と同等に扱われるほか、日本学生支援機構の奨学金の受給が可能になるなどのメリットを生かせるようになりました。

また、開校以来全寮制をとつていましたが、平成18年度末を持つて全寮制が廃止され、今は学生会館として、各部屋は学生の更衣室等として利用しています。現在、通学は自家用車などその他、当校のバスでJR能登川駅まで送迎しています。

次に授業内容ですが、6次産業化農業やスマート農業、農産物生産管理等を必須科目に加えます。

えるなど、近年の農業情勢の変化に合わせ、今後必要とされる知識や技術を身につけられるよう、カリキュラムの見直しを図っています。スマート農業では、平成29年度に複合環境制御ができるICT園芸ハウスおよび教室を整備し、農作物生産管理では、平成31年1月に当時では近畿の農業大学校で初めて国際水準GAP(ASIA GAP・メロン)認証を取得し、現在も認証を維持・更新して教育ツールとして活用しています。

近年の卒業生の進路状況は下の表のとおりですが、非農家出身の学生が増えていることから、農業従事者としては、自営就農者より農業法人などへの就職就農者が増えています。稻作を當む大規模農業法人への就職就農者も多く、また、露地野菜などの複合経営に取り組む就職先も増えていることから、令和4年度から、作物専攻を水田農業専攻に変更し、露地野菜も学べるカリキュラムに変更しております。

この3年間は、コロナ禍で制約を受けた学校行事もありましたが、校内のリモート学習環境を整えるなど、密にならないよう対策も取つてまいりました。コロナの分類も5類に移行して、ようやく以前の学校行事に戻り、今年度は兵庫県で開催された東海近畿スポーツ大会に4年ぶりに参加し、他府県の学生との交流を図ることができました。令和6年5月には滋賀県で開催されることが決まっています。

その他、平成19年度から研修科を就農科とし、名から15名に増やしています。令和4年度末で研修科修了生も含み、194名の方々が研修を修了されました。このように、時代の変化に対応し、今後も新たな滋賀県農業を担う農業者や指導者になり得る人材の育成に努めてまいりますので、会員の皆様の引き継ぎのご指導、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

農業大学校の進路状況（過去5年）

(人)

卒業年度	卒業者数	農業従事者	継続研修		農業団体・企業等	その他
			国外	国内		
H30年度	29	19	0	0	9	1
R1年度	20	8	0	3	9	0
R2年度	24	8	0	2	10	4
R3年度	20	12	0	0	5	3
R4年度	25	11	0	1	11	2

※農業従事者には自営就農のほか農業法人等への就職就農も含む



トピックス

東海近畿地区農業大学校学生スポーツ大会



みんなで集まって‘やったぜ～！’

ASIAGAP 維持審査



維持審査で緊張…風景です

新役員体制

令和5年7月30日に総会が開催され、新役員が選出されました。今後は、新しい役員体制のもと活動が行われます。



久保田会長



安居副会長



柏本副会長



村田監事



山梶監事



令和5年5月25日～26日にかけて、東海近畿地区農業大学校9校によるスポーツ大会が兵庫県三木市で開催されました。当校は新型コロナウイルスの蔓延もあり、4年ぶりの参加となりました。

学生は、軟式野球、バレー、バスケットボール、バドミントン、卓球、テニスといった出場種目に分かれて奮闘しました。

バスケットボール、卓球団体は初優勝、卓球男子は個人シングル、ダブルスとも優勝するなど優秀な成績を収めることができました。

令和5年11月2日にはメロン栽培についてASIA GAP青果物Ver.2.3改定第1版の維持審査を受検しました。当日の公開審査部分では、国際水準GAPの取得を目指すJAや農業法人、農業高校などの関係機関も参加されました。

認証はメロン栽培ですが、本校では、平成31年に初めて認証を受けたことを契機に、「農産物生産管理」の科目を新たに設けて、学生全員にGAPの考え方を浸透させることで農業教育の一環として位置付けています。

顧問	顧問	顧問	顧問	監事	監事	副会長	役職	氏名	卒業年度	住所	備考
野村秀一郎	鈴村重史	向満男	片木明	山村国廣	山梶浩充	安居誠	柏本健一	久保田九	H6年度		
S44年度	S44年度	S45年度	S44年度	H9年度	H2年度	H16年度	H15年度				
東近江市	東近江市	東近江市	甲賀市	草津市	近江八幡市	彦根市	長浜市	愛知郡愛荘町			
前会長	元会長	元会長	元会長								

卒業生の近況



平井 翔さん
(平成29年度卒業)

高島市安曇川町で自営就農しています。栽培面積は50haで稻麦大豆のほかイチジク、サツマイモを栽培しています。

実家が農家であり、幼少期よりトラクター等の機械が好きで乗っていて、将来は農家になりたいと思っていました。普通科高校から農大に進学し、卒業後は地元で就農（親とは別経営）しました。

十人十色という言葉がありますが、農業においても自分が栽培した作物は自分独自の味が出ると思っています。また、自分の努力が良い方にも悪い方にもしっかりと結果として出るというところが農業の楽しさだと思います。



農大5人衆（加藤さんは右から2人目）

農業は気候が相手ということもあり思つたように育たなかつたり、作業できなかつたりなど、難しい面もありますが、その中で、自分で考え、工夫しながら作物を作ることも農業経営の魅力の一つだと感じています。

これからも魅力ある楽しい農業経営と、更なる規模拡大を目指すとともに、地元集落の維持保全にも取り組んでいきたいと思っています。

加藤 純弥さん（令和元年度卒業）

武田 博幸さん（平成24年度卒業）
柚木 英典さん（令和3年度卒業）
久保 憲太郎さん（令和4年度卒業）
森田 瞳輝さん（令和4年度卒業）

守山市にある農業法人ザ・コロナパークス株式会社に就職就農しています。びわこもりやまフルーツランド（観光農園）の運営とナシ（現在4.2ha+予定0.6ha）ぶどう（予定1ha）の生産に携わっています。

私は非農家で生まれましたが、田舎の小学校で自然に触れて育ってきたため、農業に興味があり湖南農業高校に進学しました。その後、もっと技術を取得したいと思い、農大に進学しました。卒業後は、農大で実習指導員を2年間していましたが、高齢化が進む果樹園で新しい会社が立ち上がったことを知り、自分の経験が生かせると思い、就職就農しました。

また、就農後は実習指導員時代の学生3名を誘い、農大卒業生の社員5名の若手で産地を盛り上げようと頑張っています！

農業は気候が相手ということもあり思つたように育たなかつたり、作業できなかつたりなど、難しい面もありますが、その中で、自分で考え、工夫しながら作物を作ることも農業経営の魅力の一つだと感じています。

これからも魅力ある楽しい農業経営と、更なる規模拡大を目指すとともに、地元集落の維持保全にも取り組んでいきたいと思っています。

当校では実習に使用する農業機械を計画的に更新していますが、老朽化している農機が多く、突発的に機械が故障し実習が実施できないことがあります。

つきましては、同窓会員の皆様の中で、機械は動くが今後使用する予定がない50~60PSのトラクタがございましたらお譲りいただければ幸いです。

事務局からのお願い



栽培だけでなく、経営・販売にも携わることができ、自分たちの頑張りで今後の方向性が変わることなど責任もありますが、やりがいを感じています。農大との繋がりも強いので、ぜひ見に来てください！